

# 体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

地域ぐるみの青少年防災キャンプ推進事業

愛媛県

## 【事業のポイント】

- 地域住民や学校関係者、自主防災組織関係者等が参画し、地域が一体となって取り組む防災教育の視点にたった青少年の体験活動を推進する。
- 県内3会場で行う学校等での避難所生活模擬体験を含む2泊3日のキャンプでは、それぞれ土砂災害、離島災害、津波災害を想定した防災教育プログラムと放射線の正しい理解を促進する共通プログラムを実施する。



〈 応急担架づくり 〉

## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

愛媛県では、東南海・南海地震等に備えた県民の安全・安心の確保を最優先に取り組むこととしており、避難路の改修等の支援や、県立学校校舎等の耐震化を前倒して実施するなどハード面の整備を充実させている。また、児童生徒等の発達段階に応じた「自助から共助への防災教育」を県下全域に推進するとともに、地域との連携による総合的な防災力の強化を図るなど、災害対応力を強化するソフト面の充実にも力を入れている。

### (2) ねらい

愛媛県の地形上の特性や地域の課題から三つの地域で土砂災害、離島災害、津波災害を想定した被災時の対応を体験的に学ぶ防災プログラムを実施し、防災教育の視点にたった青少年の体験活動を推進する。

## 2. 事業概要

### (1) 運営体制

- 1 愛媛県教育委員会が防災関係部局と連携しながら事業を推進する。
- 2 三つの地域で実施する防災キャンプ、防災フォーラムは、県教委の地方機関である各地域の教育事務所で開催する。
- 3 防災キャンプの実施にあたっては、学校関係者、行政関係者、社会教育団体、自主防災組織等からなる現地実行委員会を組織し、質の高いプログラムを提供するとともに、地域住民の積極的な参加を得て充実した事業の実施に努める。
- 4 中高生を対象に事前研修会を開くなど、参加する青少年が年齢に応じて主体的に活動できる場面を設定し、青少年の力を伸ばすことに努める。
- 5 防災フォーラムにおいては、防災キャンプの報告を通して、成果等を地域課題を同じくする他の地域に普及し共有化を図る。
- 6 県教育委員会は、Webを活用して防災キャンプやフォーラムに関する事業のPRや実施状況等を広報するとともに、事業の取組を実践事例集にまとめ、その成果を広く県民に普及啓発する。

### (2) 開催実績

| 月 日       | 内 容                             |
|-----------|---------------------------------|
| 6月6日      | 南予地区防災キャンプ第1回実行委員会              |
| 6月13日     | 中予地区青少年防災キャンプ第1回実行委員会           |
| 6月17日     | 東予地区青少年防災キャンプ第1回実行委員会           |
| 6月25日     | 南予地区防災キャンプ第2回実行委員会              |
| 7月10日     | 東予地区青少年防災キャンプ第2回実行委員会           |
| 7月13日     | 南予地区青少年防災キャンプ事前研修会              |
| 7月16日     | 南予地区防災キャンプ第3回実行委員会              |
| 7月18日     | 中予地区青少年防災キャンプ第2回実行委員会           |
| 7月25日～27日 | 南予地区青少年防災キャンプ(宇和島市立吉田小学校)       |
| 7月29日     | 東予地区青少年防災キャンプ事前リーダー研修会          |
| 7月29日     | 東予地区青少年防災キャンプ第3回実行委員会           |
| 8月2日～4日   | 東予地区青少年防災キャンプを実施(四国中央市 金田公民館)   |
| 8月2日～4日   | 中予地区青少年防災キャンプを実施(松山市立中島小学校)     |
| 8月19日     | 南予地区防災キャンプ第4回実行委員会              |
| 9月3日      | 中予地区青少年防災キャンプ第3回実行委員会           |
| 9月9日      | 東予地区青少年防災キャンプ第4回実行委員会           |
| 11月8日     | 東予地区青少年防災体験フォーラム事前研修会           |
| 11月15日    | 南予地区青少年防災フォーラム打合せ会              |
| 11月16日    | 中予地区青少年防災体験フォーラムを開催(松山市にきたづ会館)  |
| 12月7日     | 東予地区青少年防災体験フォーラムを開催(四国中央市福祉会館)  |
| 12月10日    | 南予地区青少年防災体験フォーラムを開催(愛媛県歴史文化博物館) |

### 3. 防災キャンプ実施概要

#### ■活動名①:平成25年度青少年防災キャンプ【東予地区】

##### (1)運営体制

公民館を避難所とした地域防災のあり方を想定して、自主防災組織を中心とした避難所運営と、青少年が体験的に学ぶことができる防災プログラムを実施した。

#### 1 実行委員会

地域の実態に合った避難所運営のあり方や研修内容を具体的に検討していくため、以下のメンバーによる実行委員会を組織した。

燧灘防災会長・副会長、金田婦人会長、南小学校長・教頭、川滝小学校長、南小学校PTA会長・副会長、四国中央市消防課長、四国中央市安全・危機管理課長、教育委員会学校教育課課長補佐、市教育委員会生涯学習課社会教育係主任、金田公民館長・主事、東予教育事務所社会教育課長・社会教育主事

#### 2 運営委員会組織

地域の自主防災会や社会教育団体などの地域防災組織と連携した青少年防災キャンプ運営委員会を組織した。

#### 3 その他の協力団体

金田地域自主防災会、四国中央保健所、川滝公民館

##### (2)実施内容

1 日時:平成25年8月2日(金)～4日(日)

2 場所:四国中央市金田公民館

3 参加人数:総数 106人

(内訳)児童19人、生徒21人、保護者17人、地域住民40人、学校関係者3人、行政関係者6人

#### 4 日程

【1日目】 8月2日(金)

18:00 18:45 19:00 21:00 22:00

|   |   |          |   |   |
|---|---|----------|---|---|
| 受 | 開 | 【全体研修】   | 活 | 就 |
| 付 | 会 | 被災・避難直後の | 動 |   |
|   | 行 | 対応を学ぶ    | の |   |
|   | 事 |          | 反 |   |
|   |   |          | 省 |   |
|   |   |          | 寝 |   |

【2日目】 8月3日(土)

6:00 6:45 7:30 8:00 9:45 12:00 13:30 15:30 17:00 19:30 21:45 22:00

|   |    |   |        |          |    |        |   |    |        |   |   |
|---|----|---|--------|----------|----|--------|---|----|--------|---|---|
| 起 | 朝  | 片 | 【全体研修】 | 【グループ研修】 | 昼  | 【全体研修】 | 入 | 夕  | 【全体研修】 | 活 | 就 |
| 床 | 食  | 付 | 中央構造   | 災害から身を   | 食  | 放射線を正  | 浴 | 食  | 防災を学ぶ  | 動 |   |
| ・ | (備 | け | 線川滝断   | 守る危険箇所   | (備 | しく知ろう  | 体 | (炊 | 活動『東日  | の |   |
| 体 | 蓄  |   | 層見学    | マップづくり   | 蓄  | 『放射線測  | 験 | 出し | 本大震災被  | 反 |   |
| 操 | 食) |   |        | 『地域の危険   | 食) | 定や霧箱の  | 体 | し) | 災地支援者  | 省 |   |
|   |    |   |        | 箇所マップ』   |    | 実験など』  | 験 | し) | に聞く』   | 寝 |   |
|   |    |   |        |          |    |        | シ |    |        |   |   |
|   |    |   |        |          |    |        | ユ |    |        |   |   |
|   |    |   |        |          |    |        | タ |    |        |   |   |
|   |    |   |        |          |    |        | イ |    |        |   |   |

【3日目】 8月4日(日)

6:00 7:00 7:30 8:15 11:10 11:30

|   |    |   |            |   |   |
|---|----|---|------------|---|---|
| 起 | 朝  | 会 | 【グループ研修】   | 閉 | 解 |
| 床 | 食  | 場 | 災害時の対応を学ぶ  | 会 |   |
| ・ | (備 | 片 | 体験活動       | 行 |   |
| 体 | 蓄  | 付 | 『起震車体験、応急処 | 事 |   |
| 操 | 食) | け | 置の方法など』    | 散 |   |
|   |    |   |            |   |   |

## 5 活動の様子

### 《1日目》

#### 研修1 「被災・避難直後の対応を学ぶ」 講師 燧灘防災会 会長 大西 忍 氏

参加家族が自宅から地域の避難所である公民館に避難して来たところから、防災キャンプを始めた。まず、燧灘防災会により受付の準備や避難所内部の安全確認が実施され、青少年防災キャンプ運営本部長より、金田公民館防災拠点の開設宣言が行われた。その後、避難所生活で大切なことについて考えたあと、親子で協力しながら段ボールを使っての生活スペースづくりに取り組んだ。



避難所の開設



避難所生活についての話し合い



居住スペースづくり

### 《2日目》

#### 研修2 中央構造線川滝断層見学 講師 愛媛大学防災情報研究センター

副センター長 高橋治郎 氏

四国中央市川滝町にある中央構造線川滝断層の見学を実施した。はじめに、地震発生のメカニズムについてわかりやすく話していただいた。その後、川滝断層の見学に行き、現地で断層を直接確認しながら、断層と地震の関係について話を伺った。



地震のメカニズムの話



断層についての説明



断層の確認

#### 研修3 災害から身を守る危険箇所マップづくり 講師 燧灘防災会 会長 大西 忍 氏

防災危険箇所マップづくりについて説明を受けた後、3つのグループに分かれてマップづくりに出かけた。地震によるブロック塀や建物の倒壊、瓦の落下などの可能性のある場所や狭い道路、台風や集中豪雨による水路や河川の氾濫の可能性のある場所、土砂災害の可能性のある場所などを地図に書き込んだ。指導に当たっては、事前研修会で学習していた中学生や高校生、地域の自主防災会の方々からアドバイスをいただいた。



地域の方から学ぶ



防災会の方から学ぶ



大きな川にある水位観測所

**研修4 「放射線を正しく知ろう」 講師 愛媛大学総合科学研究支援センター 講師 増田晴造 氏**  
 「放射線と放射能の違い」「汚染と被爆の違い」「簡易測定器を使った放射線量の測定方法」について、分かりやすく話していただいた。また、簡易測定器を使い身の回りの放射線を測定したり、「霧箱の実験」で放射線の飛跡を実際に観察したりするなど体験活動も行った。子どもたちも興味をもって参加できる内容で、一緒に参加した保護者や避難所運営スタッフ、一般参加者にとっても、放射線について正しく知るよい機会となった。



放射線についての説明



放射線量の測定の説明



放射線量の測定

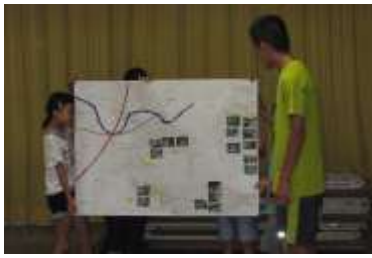
**研修5 「防災を学ぶ活動」 講師 燧灘防災会**

はじめに、午前中に個人で作成した防災危険箇所マップをもとに、グループごとに大きな地図に危険箇所を記入し、防災危険箇所マップ完成させた。3つのグループがそれぞれ見つけたことを発表し合い、情報の共有を図った。

その後、東日本大震災の被災地支援に行かれた燧灘防災会の方から話を伺った。現地で見えてきたことや聞いてきたこと、感じたことなどを写真とともに話して下さった。地震の恐ろしさとともに助け合うことの大切さを学ぶことができた。



大きな地図に情報を書き込む



危険個所の情報を発表する



被災地の様子について聞く

《3日目》

**研修6 「災害時の対応を学ぶ体験活動」 講師 燧灘防災会、四国中央市消防署**

はじめに、簡易担架の作り方や骨折部位の添え木の仕方など、緊急時の応急手当の方法について教えていただいた。次に起震車や煙ハウスの体験、救助工作車の見学をした。最後に、土嚢や水嚢の作り方、積み方を教えていただいた。土嚢の作り方の指導も事前研修を受けていた中・高生が担当した。



緊急時の応急処置を学ぶ



起震車などの体験・見学



土嚢づくり

■活動名②:平成25年度青少年防災キャンプ【中予地区】

(1)運営体制

1 実行委員会

中島地区総代会長、中島公民館長、松山市消防団第9方面隊長、松山市女性消防団第9部、松山市役所中島支所長、中島老人クラブ連合会長、中島文化センター所長、中島B&G海洋センター所長、中島中学校長、松山北高等学校中島分校長、中島小学校PTA会長、中島小学校長

2 運営協力

松山市立中島小学校、松山市消防局、松山市教育委員会

3 講師・指導者

松山市立中島小学校教諭(辻健一)、社会教育ボランティア推進員(大野和徳)、松山市西消防署職員、愛媛大学総合科学研究支援センター(増田晴造)、中島老人クラブ連合会長(小立公司)、松山海上保安部職員、中島B&G海洋センター職員

(2)実施内容

1 日時:8月2日(金)~4日(日)

2 場所:松山市立中島小学校

3 参加人数:89人

(内訳):児童16人、保護者10人、地域住民43人、学校教職員13名、地元中高校生7名

4 日程

| 2日(金)  | 3日(土)   | 4日(日)  |
|--|---|--|
|                | 6:30 起床・洗面・健康観察<br>体操   | 6:30 起床・洗面・健康観察<br>体操  |
|  | 7:00 朝食<br>(非常食を食べよう)   | 7:00 朝食<br>(非常食を食べよう)  |
|  | 8:30 防災体験活動1<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ロープ結索</li> <li>・応急手当</li> <li>・人命救助</li> <li>・消防体験(煙体験、ロープ渡し)</li> <li>・防災資機材展示</li> </ul> 講師 松山西消防署職員<br>社会教育ボランティア推進員 | 9:00 講義・実験<br>「放射線って何だろう？」<br>講師 愛媛大学 講師                       |
| 15:00 事前リーダー研修<br>(中学生・高校生対象)<br>【実習】<br>・避難所開設<br>・資材、食材の受入及び配給<br>・非常時の生活<br>・非常食づくり<br>・介護・誘導 | 11:00 昼食<br>(お湯でつくる食事)  | 10:00 振り返り<br>活動のまとめ   |
|  | 14:00 防災体験活動2<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・水難事故防止訓練</li> </ul> 講師 松山海上保安部職員<br>協力 中島B&G海洋センター<br>松山市消防団   | 10:30 閉会行事   |
| 18:00 集合・受付<br>開会行事  | 16:30 夕食づくり<br>(簡単どんぶり)   | 11:00 解散   |
| 19:00 【実習】避難所設営<br>班編成・役割分担<br>パーティション設営   | 19:00 防災講話<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人の話を聞こう</li> </ul> 講師 中島老人クラブ連合会会長   | 食事献立(非常食)<br>受付… 水、乾パン<br>3日朝… 缶入りパン 梅干<br>塩ブドウ糖タブレット<br>ソーセージ |
| 21:00 活動の振り返り<br>就寝準備  | 20:00 振り返り  | 3日昼… カップめん<br>チキンライス(アルファ化米)<br>きんぴらごぼう(缶詰)                    |
| 21:30 消灯   | 21:00 就寝準備  | 3日夕… 白米<br>あぶ玉汁<br>やきとり(缶詰)                                    |
|  | 21:30 消灯  | 4日朝… ドライビスケット<br>フルーツ(缶詰)                                      |

## 5 活動の様子

### 《1日目》

#### 【実習】中・高校生事前研修会

東日本大震災被災時、避難所では中・高校生がボランティアとして精力的に避難所運営に携わり、被災者を勇気づけたという報告がある。中島地域においても頼もしい存在である中・高校生に対する住民の期待は大きい。そこで、中・高校生を対象とした避難所運営や生活の仕方などについての研修を事前に行い、彼らがリーダーとしての力を発揮できるようにした。



【中高校生による受付】



【パーティーション設営】



【就寝の様子】

### 《2日目》

#### 【防災体験活動】

午前中の防災体験活動では、松山西消防署職員等の協力を得て、ロープワーク、人命救助、非常時の対応、応急手当などの体験活動を行った。午後の防災体験活動2では、松山海上保安部職員による水難事故防止や対応の仕方について実習を行った。夜間は、中島地域の自然災害についてよく知る方の話を聞いた。



【ロープワーク】



【ロープ渡り】



【水難事故防止教室】

### 《3日目》

#### 【活動のまとめ】

愛媛大学総合科学研究支援センター増田晴造講師による講義「放射線について知ろう」を実施し、放射線についての説明を受けた後、「霧箱の実験」で放射線の飛跡を観察したり、測定器を用いて自然界の物質から出る放射線を測定したりして、放射線に対する理解を深めた。

活動のまとめでは、参加者が、3日間を通して学んだことや考えたことなどを発表し合い、3日間の経験を振り返った。最後に、実行委員の講評と中島小学校長の総評でキャンプを締めくくった。



【朝食の様子】



【放射線についての講義】



【閉会行事(修了証伝達)】

■活動名③:平成25年度青少年防災キャンプ【南予地区】

(1) 運営体制

【実行委員会組織】吉田小学校PTA会長、吉田小学校職員、吉田地区自治会長、吉田地区老人会長、婦人会長、消防団長、吉田公民館長・主事、宇和島消防署吉田分署長、宇和島市危機管理課係長、社会教育課長、社会教育主事、吉田高等学校職員、防災アドバイザー

【その他の関係団体】自衛隊、ボーイスカウト宇和島第1団、愛媛県社会福祉協議会、愛媛大学

(2) 実施内容

ア 事前研修会

(ア) 日 時 平成25年7月13日(土)9:30～13:00

(イ) 場 所 吉田ふれあい健康センター

(ウ) 参加者 吉田中学校生徒5名、吉田高等学校生徒3名、社会教育課3名、吉田高等学校職員1名

(エ) 日 程

- ・プログラム1 「東日本から学ぶ防災への取組」
- ・プログラム2 「災害ボランティアセンターと避難所の運営について」
- ・プログラム3 「避難所の開設と運営」
- ・プログラム4 「役割分担及び演習」

(オ) 講師 愛媛県社会福祉協議会 萩森一路 氏  
消防科学総合センター防災図上訓練指導員  
毛利泰明 氏



事前研修会 →

イ 青少年防災キャンプ

(ア) 日 時 平成25年7月25日(木)～27日(土)

(イ) 場 所 宇和島市立吉田小学校

(ウ) 参加人数 132人(児童40人、中高生15人、保護者22人、地域住民等55人)

(エ) 日 程

| 【1日目】 7月25日(木) |       |                 |                 |       |       |  |
|----------------|-------|-----------------|-----------------|-------|-------|--|
| 18:00          | 18:30 | 19:00           | 20:30           | 21:30 | 22:00 |  |
| 受付             | 開会式   | プログラム①<br>避難所開設 | プログラム②<br>古老の話を | 反省会   | 就寝    |  |

| 【2日目】 7月26日(金) |       |      |                     |                  |       |       |                                |                           |       |       |                             |     |    |
|----------------|-------|------|---------------------|------------------|-------|-------|--------------------------------|---------------------------|-------|-------|-----------------------------|-----|----|
| 6:00           | 6:30  | 8:00 | 9:30                | 12:00            | 13:00 | 15:00 | 17:00                          | 19:00                     | 21:30 | 22:00 |                             |     |    |
| 起床             | (備蓄食) | 朝食   | プログラム③<br>『災害と助け合い』 | プログラム④<br>『避難訓練』 | (備蓄食) | 昼食    | プログラム⑤<br>『放射線を正しく知ろう』<br>愛媛大学 | プログラム⑥<br>ものづくり<br>ドラム缶風呂 | (炊出し) | 夕食    | プログラム⑦<br>防災ゲーム<br>(夜の避難訓練) | 反省会 | 就寝 |

| 【3日目】 7月27日(土) |       |      |      |  |       |    |
|----------------|-------|------|------|--|-------|----|
| 6:00           | 6:30  | 8:00 | 9:00 | 11:30  | 12:00 |    |
| 起床             | (備蓄食) | 朝食   | 片付け  | プログラム⑧<br>『防災体験活動』<br>・煙幕体験<br>・サバイバル術<br>・自衛隊コーナー | 閉会式   | 解散 |

(オ) 活動の様子

《1日目》

「避難所開設」

防災関係者等から避難所での宿泊に関する注意点を聞いたあと、トイレで使う水をプールからバケツリレー方式で運んだ。大変な作業であったが、長期にわたる避難所生活の一端を感じとることができた。その後、簡易トイレやパーテーション作りについて学んだ。

「古老の話」

地域の歴史に詳しい方から過去の災害(安政の大地震や南海地震等)について、地元の庄屋に残る文献などを交えて話していただいた。身近な場所で起こった災害ということもあり、参加者は興味深く講師の話に耳を傾けていた。



トイレ用水の運搬



簡易トイレの製作 (高校生)



古老の話(過去の災害)

《2日目》 「避難訓練」および「防災ゲーム」

午前中に行った避難訓練では、緊急地震速報後、津波から逃げるために高台をめざして、できるだけ迅速に、安全な道を探しながら避難した。復路は、道路や建物の危険箇所を確認しながら帰校した。道路のひび割れや建物のゆがみなどから危険を見つけることができた。

・「放射線を正しく知ろう」講師 愛媛大学総合科学支援センター 増田晴造 先生

「放射線と放射能の違い」、「汚染と被爆の違い」について分かりやすく説明していただいた。また、測定キットを使った放射線量の測定や放射線の飛跡を観察する実験もあり、楽しく学習することができた。

・また、夜間に実施した「防災ゲーム」では、簡単なクイズに続いて、班ごとに障害物のたくさん置かれた真っ暗な校舎を懐中電灯1本を頼りに避難する活動を行った。班の中に、要援護者を1名設定し、みんなで気を配りながら安全に避難しようと助け合う姿が見られた。



ラジオ体操



避難訓練1 高台へ逃げ！



放射線の測定



炊き出し(豚汁)



避難訓練2 夜の避難は大変！



パーテーションで寝てみよう！



《3日目》「防災体験活動」

最終日は、各ブースごとで、消防署の協力による煙幕体験、自衛隊の協力による東日本大震災のパネル展、人命救助の機材展示、自衛隊車両の体験試乗、ボーイスカウトの協力による災害時に役立つロープワーク等を体験した。また、2日目に雨のため中止となっていたドラム缶風呂を実施した。体育館には、参加児童一人一人が作成した防災五七五の句を展示し、公民館長に優秀作品を選出していただいた。



人命救助の機材(自衛隊)



体験試乗(自衛隊)



ロープワーク



煙幕体験(消防署)



ドラム缶風呂



班対抗バケツリレー

4. 普及啓発の実施概要

■活動名①: 防災体験フォーラム【東予地区】

- 1 趣旨: 保護者や地域住民、自主防災組織等の防災関係者等を対象としたフォーラムを開催し、防災キャンプの成果を広く東予管内及び県内に普及啓発するとともに、防災キャンプによる体験的な防災教育の推進を図る。
- 2 日時: 平成25年12月7日(土) 13:30~16:30
- 3 場所: 四国中央市福社会館 多目的ホール
- 4 参加人数: 153人
- 5 参加対象: PTA、地域住民、学校関係者、自主防災組織等の防災関係者  
社会教育関係者、行政関係者 等
- 6 日程
  - 13:30~ ・開会行事
  - 13:45~ ・講演:「大切にしたい三つの命」  
講師: NPO法人 神戸の絆2005  
岡本武利 氏
  - 15:25~ ・実践報告
  - 16:25~ ・閉会行事

実践報告に対する  
意見発表 →



↑ 講演会

## ■活動名②：青少年防災体験フォーラム【中予地区】

### 1 趣旨：

東南海における連動型地震が予測され、自他の尊い命や財産を守る防災・減災に関する意識が高まっている。そこで、地域の青少年や住民が一体となって体験的に学ぶ防災教育の普及・啓発を図る。

2 日時：平成25年11月16日(土)

3 場所：にぎたつ会館(松山市)

4 参加人数：89人

5 参加対象：地域住民、社会教育関係者、学校教育関係者、防災関係者、行政関係者

### 6 日程

13:00～ ・開会行事

13:15～ ・実践報告

14:10～ ・講演「避難所運営に関する事前の備え」

講師 静岡県教育委員会 教育総務課 主幹 貝瀬 佳章

15:50～ ・閉会行事



【実践報告】



【講演】



【HUGを使ったワークショップ】

## ■活動名③

### 青少年防災フォーラム【南予地区】

(1) 趣旨： ・7月末に実施された防災キャンプについて参加者が発表報告を行い、キャンプの成果について普及啓発を図るとともに課題等について話し合う。

・南予地域において想定される大規模災害(津波)への備えについて再確認し、地域の自主防災活動による自助・共助の大切さと公助との連携の理解を深め、地域コミュニティづくりの重要性を再確認する。

(2) 日時：平成25年12月10日(火)

(3) 場所：愛媛県歴史文化博物館 多目的ホール

(4) 参加人数：212人

(5) 参加対象：学校関係者、行政関係者、自主防災関係者、婦人会関係者、小学生、高校生等

### (6) 日程

13:00～ ・受付、開会行事

13:45～ ・講演：「社会総がかりでの人づくりについて」

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 長田 徹 氏

要旨： ○避難所運営、学校の再開がスムーズにできたところは、学校・家庭・地域の連携が震災前から良好であったところが多い。

○東日本大震災は壮絶な津波による被害であったが、その中でも子どもたちの行動は、大人たちを勇気づけた。

15:20～ ・実践報告 テーマ「いかにして学校・家庭・地域の絆を深め、防災意識を高めるか」

・発表者 吉田小学校教諭、保護者、児童、吉田高等学校生徒、危機管理課係長

・概要： 7月25日～27日まで宇和島市立吉田小学校で開催された青少年防災キャンプの取組について、保護者、参加児童、学校、行政のそれぞれの立場から報告し、防災キャンプの様々なプログラムを通して、参加者が深く学び、防災意識が高まっていった過程を紹介した。その後、質疑応答及び意見交換を行った。

16:20～ ・閉会行事

## 5. 成果と課題

### (1) 事業成果

#### ア 青少年防災キャンプ

- ・ 昨年度と異なる市町において新しい防災プログラムを設定して実施することができ、本事業の普及拡大を果たした。
- ・ 参加者は、体育館等に宿泊し、床の固さや集団生活のストレス、食事の不自由さなどを経験することで、避難所生活を実感することができた。
- ・ 防災体験活動で、非常時の応急処置の方法や心得などを学んだ。そのことにより、参加者は防災意識が高まり、非常時における対応に自信をもつことができた。
- ・ 災害発生をイメージすることで危機意識が高まったことから、帰宅後、家族で、非常用持出し袋を整備したり、避難経路を実際に確認したりするといった実践があった。
- ・ 地域住民が、自分たちの地域の防災体制について見直しをする意欲が高まった。地域の大人が自己の生活を見直し、地域をよくしていこうとする意識を高めることにつながっている。
- ・ 人間関係の大切さと有用性を経験したことから、地域住民や保護者が、普段からのコミュニケーションの必要性を感じている。
- ・ 学校関係者は、活動の中で避難所としての学校施設設備の改善点を見直している。また、学校の非常時の体制や避難所開設時の対応についての共通理解の必要性が明らかになった。

#### ○児童の感想

- ・ パーテーションで宿泊して避難所生活の大変さが分かった。
- ・ 避難所ではみんなが助け合うことが大切だと思った。

#### ○高校生の感想

- ・ このような防災キャンプを実際に体験しているのとしていないのでは、被災時の行動が全く違ったものになると思った。今回の防災キャンプによって、知識だけに頼らない「対応力」を身に付けることができたと思う。

#### ○保護者の感想

- ・ わが子のがんばりや成長が見られた。地域に支えられていることを実感した。
- ・ テレビで見ている災害は遠い場所の話だったが、実際に経験したり学んだりして身近になった。

#### ○地域住民

- ・ みんなで協力し合うことやリーダーシップの大切さを感じた。避難所生活を体験して、地域の人との交流ができた。

・ 中・高校生への働きかけが頼りなかった

#### イ 青少年防災体験フォーラム

- ・ 震災の実体験者による講演を通して、参加者は震災の実際を深く理解し、防災に対する意識を高めていた。
- ・ 講演だけでなく、避難所運営ゲーム「HUG」を使ったワークショップを導入することで、参加者は避難所運営時に対応すべき事柄を実感として学ぶことができた。
- ・ 防災キャンプの報告や意見交換時の発表など、児童や中高生が主体的に活動する場面が多く見られた。

#### ○参加者の感想

- ・ 震災の体験者による講演は心に迫るものがあり感動した。
- ・ 子供たちは防災キャンプの報告が立派にできていた。意見発表した高校生の意識の高さに感心した。
- ・ 具体的な活動や内容で自分の知識のなさを実感することができた。
- ・ HUGを使用した講演は、ただ話を聞くだけでなく自分で考え動くことができたのでよかった。
- ・ 学校での防災教育に生かしたい。避難所運営の見通しがもてた。児童生徒が動き協力できる力をつけていきたい。

### (2) 事業運営上の課題・留意点

#### ア 青少年防災キャンプ

- ・ 真夏の2泊3日という日程が、児童、保護者にとっては参加を躊躇する要因になるようである。参加者を募る際には、防災キャンプの内容や趣旨を十分周知するとともに、参加者の挑戦意欲や興味関心を高めるような呼びかけや、事前説明会を開くことなどを検討する必要がある。
- ・ 真夏に実施するため、熱中症や食中毒に対策を十分に取るとともに、保健医療スタッフ等の確保も7検討しなければならない。
- ・ リーダーとして力を発揮することができる中高生が参加することでキャンプの有効性が高まる。変面、中高生は、部活動や補習、諸行事の準備等のため、参加する生徒に限られる傾向にある。
- ・ 災害発生時は、教職員や行政職員が対応しなければならない状況も考えられることから、教職員・行政職員が参加することは有意義である。
- ・ 児童、保護者、地域住民と参加者の年齢層は幅ひろい。あくまでも児童・生徒を対象とした講話、講義の内容を検討し、大人の参加者に対し理解を求めておきたい。
- ・ ゆとりのあるプログラムを計画し、夜間は非常時の対応訓練として、必要最小限の照明にとどめ、安静に過ごせるようにしたい。

#### イ 青少年防災体験フォーラム

- ・ 小・中・高校生が実践発表や意見交換等において、キャンプ参加の感想や、自分の変容を発表する場面を多く設定することが、本事業の目的を達成することにつながる。
- ・ 意見交換において、会場からの意見を聞けるよう、余裕を持った日程を組みたい。
- ・ 参加募集については、各市町教育委員会の協力だけでなく、防災担当課の協力を得ることができるよう働きかけをする必要がある。
- ・ 秋季の休日に行う場合、他の行事・イベントと重複することがあるので、開催時期を調整したい。

#### (3)その他

#### ア 青少年防災キャンプ

- ・ 夏季に実施の場合、熱中症対策等のため、保冷、水分・塩分補給の配慮が必要となる。そのための需用費を十分に確保しておきたい。
- ・ 市町教育委員会、協力校、協力団体等の連絡調整を早期に円滑に行い、実行委員会設立等、実施に向けての準備に取り掛かりたい。そのために速やかな予算措置を望む。

#### イ 青少年防災体験フォーラム

- ・ 各地で防災・減災関連行事また研修が行われている。青少年のための防災フォーラムの特色を出すことで参加者の興味や参加者にとっての意義も見出すことができるだろう。

## 6. 団体プロフィール

- 愛媛県教育委員会生涯学習課青少年教育係  
TEL089-912-2934
- 東予教育事務所社会教育課  
TEL 0897-56-1300(内458)
- 中予教育事務所社会教育課  
TEL 089-909-8780(内456)
- 南予教育事務所社会教育課  
TEL 0898-22-5211(内458)



〈防災危険箇所マップづくり〉